

宇宙との交信 疑似体験

JAXA 花巻市の児童294人で、宇宙航空本宇宙少年団 研究開発機構(JAXA)の教育支援活動「コスミックカレッジ」を開き、宇宙

花巻

花巻分団(佐々木和彦分団長)は7日、同市花城町の花巻小(小田島聡校長、児



トランシーバーを使って地球と宇宙の交信を疑似体験する子どもたち

を切り口に人との関わりを考えた。

5、6年生101人が参加。宇宙飛行士の訓練服ブルースーツのレプリカを着用し、多摩六都科学館(東京)の高柳雄一館長(78)の話に耳を傾けた。

高柳さんは、宇宙飛行士の油井亀美也さんの選考に携わった経験を紹介し「宇宙飛行士は仲間と一緒に生活や作業をするので人と協力できる力が大切。チームのために動ける人になってほしい」と呼び掛けた。子どもたちは、地球と宇宙間の交信に時差があることを体感するため、トランシーバーで会話を体験。高橋歩叶君(6年)は「時差があるコミュニケーションは難しい」と理解を深めた。

賢治の思いで宇宙へ

花巻小児童 無線交信など体験

【花巻】花巻宇宙少年団(佐々木和彦主宰)と児童たちはつなぎの訓練宇宙航空研究開発機構(JAXA)主催のコズミックカレッジは7日、花巻市花城町の花巻小学校(小田島聡校長、児童294人)で開かれた。児童たちはつなぎの訓練服に身を包んだり、宇宙飛行士が行う無線での交信を体験したりして宇宙空間に思いをほせた。科学に対する子供たちの関心や探究意欲を高める取り組みで、5、6年生101人が参加。「銀河鉄道からのメッセージ」賢治さんの宇宙☆わたしたちの宇宙」をテーマに、多摩六都科学館の高柳雄一館長が講話した。高柳館長は、誘致の取り組みが県南部で進められている次世代の大型加速器「国際リニアコライナー(ILC)」について「小さい宇宙をつくる実験装置」と説明。宇宙飛行士の選考委員を務めた経験を踏まえ、「何かをやろうとした時、いい判断だと思ったら実行できる人、相手がいいと思ったりと四苦八苦する児童も見られた。高柳館長は「情報伝達は、どこで始まりどこで終わるのか分からない」とうまくできな」と手順の大切さを助言。宮沢賢治の童話作品「銀河鉄道の夜」に触れ、「賢治は心で宇宙を旅行した。どんな思いで旅したのか考えてほしい」と締めくくった。寺澤未来さん(6年)は「トランシーバーは雑音があって、実際に宇宙で使っているのは大変だと感じた」と話した。夜には同校で中高生や一般も対象に開かれた。同少年団は日本宇宙少年団花巻分団の育成組織で、JAXAの科学教育プログラムのコスミックカレッジを開いたのは3年ぶり。12月23日に地域社会と学校の連携について考えるタウンミーティングを開催。翌24日にはJAXA宇宙教育センターと日本宇宙少年団主催の宇宙教育指導者セミナーも開かれる。

岩手日報

岩手日日新聞



トランシーバーでの交信を体験する児童

断だと思ったら実行できる人、相手がいいと思ったりと四苦八苦する児童も見られた。高柳館長は「情報伝達は、どこで始まりどこで終わるのか分からない」とうまくできな」と手順の大切さを助言。宮沢賢治の童話作品「銀河鉄道の夜」に触れ、「賢治は心で宇宙を旅行した。どんな思いで旅したのか考えてほしい」と締めくくった。寺澤未来さん(6年)は「トランシーバーは雑音があって、実際に宇宙で使っているのは大変だと感じた」と話した。夜には同校で中高生や一般も対象に開かれた。同少年団は日本宇宙少年団花巻分団の育成組織で、JAXAの科学教育プログラムのコスミックカレッジを開いたのは3年ぶり。12月23日に地域社会と学校の連携について考えるタウンミーティングを開催。翌24日にはJAXA宇宙教育センターと日本宇宙少年団主催の宇宙教育指導者セミナーも開かれる。